

「充実した、いい人生でしたね…」

夫と過ごした日々を偲んで

子どもの頃に野球と出会い、社会人に

なつてからも勤め先のチームでプレイしていた夫。

仕事から帰ると、晩酌のお酒を飲みながらナイター中継を見るのが日課であり、楽しみでした。

野球はいつしか、夫の生活に欠かせない存在となり私達にも大きな影響を与えていたものです。

今も懐かしく浮かぶのは、当時まだ幼かった孫と一緒に、家の前でキャッチボールをしていた姿。

ボールを投げ合いながら交わした会話や、孫とふれあうひとときに、夫の心は喜びで満たされて

いたのでしよう。体調を崩してからはキャッチボールの相手をするのも難しくなりましたが、

優しい眼差しで孫の頑張りを見守っていました。「おじいちゃんを甲子園へ連れて行ってあげるから

それまで元気でいてね」という頼もしい言葉にうんうんと頷いていた面影を偲べば、別れの悲しみは

深まるばかりです。平成〇〇年〇月〇〇日、夫博全 太郎 は、七十八歳にて生涯をとじました。

皆様には生前夫が大変お世話になりました。

ひとかたならぬご厚情を賜りましたことを、ここに深く感謝申し上げます。

本日はご多用の中、ご会葬いただきまして、誠に有難うございました。略儀ながら書状をもって

謹んでお礼申し上げます。

平成〇〇年 〇月〇日 (通夜)

〇月〇日 (告別式)

千葉市〇〇区〇〇町〇丁目〇〇

喪主 博全 花子

外 親戚一同



尚本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからず
ご容赦下さいますようお願い申し上げます